

第40回

# 詩歌文学館賞 贈賞式

## 詩部門

中尾太一

『フロム・ティンバーランド』

(思潮社)



## 短歌部門

中根 誠

『鳥の声』

(角川文化振興財団)



## 俳句部門

中村和弘

おどろ  
『荊棘』

(ふらんす堂)



## 第40回記念シンポジウム 詩歌の未来を語る —越境の時代に—

パネリスト



詩・井戸川射子



短歌・小佐野 弾



俳句・堀田季何



川柳・暮田真名



コーディネーター  
神野紗希 (俳句)

2025年 5月24日(土) 日本現代詩歌文学館講堂

◆第1部・贈賞式 15:00~16:00 ◆第2部・シンポジウム 16:10~17:40

■主催：日本現代詩歌文学館振興会、公益財団法人 一ツ橋総合財団、北上市、北上市教育委員会 ■後援：岩手県

入場  
無料

## 日本現代詩歌文学館

024-8503 岩手県北上市本石町2-5-60 Tel.0197-65-1728 E-mail shiika@shiikabun.jp

# 第40回 詩歌文学館賞 受賞者プロフィール



2024年10月 思潮社

## 中尾太一 なかお・たいち

1978年、鳥取県生まれ。2006年、思潮社50周年記念現代詩新人賞。詩集に『現代詩文庫 中尾太一詩集』、『ナウシカアの花の色』、『〇七年の風の東』(鮎川信夫賞)、『詩篇 パパパ・ロビンソン』、『ルート29、解放』(映画『ルート29』原作)など。



2024年5月 角川文化振興財団

## 中根 誠 なかね・まこと

1941年、茨城県銚田市生まれ。元高校教諭。歌誌『まひる野』に入会、窪田章一郎に師事。現在、運営・編集委員。歌集に『あられふり』、『境界』、『秋のモテット』など6冊。歌書に『兵たりきー川口常孝の生涯』、『プレス・コードの影 GHQの短歌雑誌検閲の実態』など。



2024年11月 ふらんす堂

## 中村和弘 なかむら・かずひろ

1942年、静岡県生まれ。61年上京、シナリオ、広告論等を学ぶ。田川飛旅子に師事し、加藤楸邨にも学ぶ。『陸』創刊より編集担当。96年、第47回現代俳句協会賞受賞。2000年より『陸』主宰。現代俳句協会特別顧問。句集に『蠟涙』、『黒船』、『中村和弘句集』、『東海』。ほか共著あり。

選考委員		
詩	短歌	俳句
朝吹亮二 川口晴美 時里二郎	川野里子 小島ゆかり 島田修三	井上弘美 小澤 實 正木ゆう子
*第14期 第40回~42回(2025-27)		



### 交通のご案内

- 北上江釣子ICから/国道107号線を釜石方向へ東進約2.5Km JR北上 駅から
- タクシー:約6分
- バス(岩手県交通):駅西口乗場より乗車、まちなかターミナル下車徒歩約7分
- JR乗換:北上線横手行(本数僅少)、柳原駅下車徒歩約3分

## 日本現代詩歌文学館

●郵便:024-8503 (以下、住所不要)  
●郵便以外:024-0093 岩手県北上市本石町2-5-60  
TEL.0197-65-1728 FAX.0197-64-3621  
URL <https://www.shiikabun.jp> E-mail [shiika@shiikabun.jp](mailto:shiika@shiikabun.jp)

# 第40回記念シンポジウム 登壇者プロフィール

<p><b>【詩】</b> 井戸川射子 いどがわ・いこ</p>	<p>1987年、兵庫県生まれ、同在住。高校の国語教員をしながら詩や小説を発表。詩集『する、されるユートピア』(2018年、私家版/19年、青土社)で中原中也賞を受賞。小説『ここはとても速い川』(21年、講談社/22年、講談社文庫)で野間文芸新人賞。2022年、小説『この世の喜びよ』(『群像』7月号/同年11月、講談社/24年、講談社文庫)で芥川賞受賞。ほかに詩集『遠景』(22年、思潮社)、小説『共に明るい』(23年、講談社)、『無形』(24年、講談社)がある。</p>
<p><b>【短歌】</b> 小佐野 弾 おさの・だん</p>	<p>1983年、東京都生まれ、台北市在住。慶應義塾大学経済学部卒、同大学院博士課程修了。俵万智の影響で作歌開始。2014年、歌誌『かばん』に参加。17年、『無垢な日本で』30首で短歌研究新人賞。歌集『メタリック』(18年、短歌研究社)で現代歌人協会賞。19年、(池田晶子記念)わたくし、つまりNobody賞。小説『車軸』(19年、集英社/22年、集英社文庫)。20年、『ホスト万葉集』を偲らと共編。歌集『銀河一族』(21年、短歌研究社)、小説『僕は失くした恋しか歌えない』(21年、新潮社)、『ビギナーズ家族』(23年、小学館)。</p>
<p><b>【俳句】</b> 堀田季何 ほった・きか</p>	<p>1975年生まれ。俳誌『楽園』主宰、歌誌『短歌』同人。詩歌集に『惑亂』『亞刺比亞』『星貌』『人類の午後』、単著に『俳句ミーツ短歌』、共著多数。俳句により、芸術選奨文部科学大臣新人賞、現代俳句協会賞、高志の国詩歌賞、芝不器男俳句新人賞奨励賞、短歌により、日本歌人クラブ東京ブロック優良歌集賞、石川啄木賞。23年、G20ニューデリー・サミットの公式詩歌アンソロジーでは、poetとして日本を代表。多言語多形式で創作。現代俳句協会常務理事、「NHK俳句」選者、南日本新聞俳壇選者。</p>
<p><b>【川柳】</b> 暮田真名 くれだ・まな</p>	<p>1997年、東京都生まれ、同在住。早稲田大学文学部卒。在学中に川柳と出会う。「川柳句会こんとん」主宰。川柳句集『補遺』(2019年、私家版)、『ぺら』(21年、私家版)、『ふりよの星』(22年、左右社)。ほかに『宇宙人のためのせんりゅう入門』(23年、左右社)。個展「家具でもわかる暮田真名展」(2021年、東京・中野)。榊原紘(短歌)、斉藤志歩(俳句)と短詩集団『砕氷船』を結成し、24年に同人誌『詩IA』刊行。荻窪「鱗」で句会「水曜日のこんとん」を主催。NHK文化センター青山教室「青山川柳ラボ」講師。</p>
<p><b>【コーディネーター】</b> 神野紗希 こうの・さき</p>	<p>1983年、愛媛県生まれ、東京都在住。高校時代、俳句甲子園を機に作句開始。お茶の水女子大学で富澤赤黄男を研究、同大学院博士課程単位取得満期退学。句集『星の地図』(2003年、まる工房)、『光まみれの蜂』(12年、角川書店)、『すみれそよぐ』(20年、朔出版)。著書『日めくり子規・漱石』(18年、愛媛新聞社)、『女の俳句』(19年、ふらんす堂)。エッセイ集『もう泣かない電気毛布は裏切らない』(23年、文春文庫)、『アマネクハイク』(24年、春陽堂書店)ほか。20年、桂信子賞受賞。日本経済新聞俳壇選者。俳誌『noi』代表。</p>